



2023 学びの丘学園

第1号

4月27日発行

おかのうえのぼくら

文責:学びの丘学園コーディネーター 上野陽二

学びの丘学園小中一貫コミュニティ・スクール2年目スタート

本年度も引き続き学びの丘学園を担当します上野陽二です。よろしくお願いします。



自由ヶ丘小学校の桜

桜の花満開の中で23年度がスタートしました。学びの丘学園小中一貫コミュニティ・スクールは2年目を迎えます。昨年度は、コロナ感染症が少しずつ落ち着き、地域の方々がボランティアとして子どもたちの教育活動の支援に入っていたけるようになってきました。子どもたちは、地域の方々から多くのことを学ぶことができました。地域の方々からは、「元気をいただきました。何かあれば声をかけてください。」という有難いお言葉をいただいています。本年度も地域の多くの方々に学校に足を運んでいただき、お互いの交流とともに、子どもたちへの教育支援をしていただければと思います。

逆に、地域の様々な活動（白水池クリーン作戦、自由ヶ丘文化祭りでのステージ発表や出店ブース担当等）に貢献できる子どもを育てていきたいと考えています。

コミュニティ・スクールの基本的な考え方、学校・家庭・地域が三位一体となって子どもを育てる（学校・家庭・地域それぞれが当事者意識をもって子どもたちを育てる）ことを肝に銘じ取り組んでいきたいと思っています。 **昔の『おらが学校の子どもは地域で育てる』の考えで**

令和4年度の成果や課題を受けて

昨年度、自由ヶ丘地区コミュニティ運営協議会（自由ヶ丘コミセン）の取り組みの目玉として、「寺子屋」と「子どもおとな会議」がありました。毎週土曜日の13:00~16:00の自由ヶ丘コミセンでの「寺子屋」では、自由ヶ丘南小学校の子どもたちの参加が少なかったという課題がありました。理由は、コミセンまでの距離が遠い、校区外ということで親の送り迎えが必要になってくるということです。途中までは、4、5名の参加があったものの、しまいには皆無ということになりました。そこで、令和5年度5月中旬をめぐりに、自由ヶ丘南小学校でも「寺子屋」を開始する予定となりました。詳細については、コミセン広報紙や学校からのお便り等でお知らせすることになります。

また、「子どもおとな会議」では具体的なプランを協議し、まとめました。本年度は、そのプランを実践していくことを目指して協議を進めて参ります。今までは、大人目線での自由ヶ丘の街づくりでしたが、子ども目線での自由ヶ丘の街づくりを取り入れていくことで、地域全体が繋がり、老若男女問わず、幅広い世代にとって住み良い街づくりに変わっていくものと期待しています。

子どもおとな会議



『子ども110番の家』についてご存じですか？

『子ども110番の家』とは、子どもの誘拐や子どもへの暴力、痴漢など何らかの被害に遭った、または遭いそうになったとき助けを求めてきた子どもを保護するとともに、警察、学校、家庭などへ連絡するなどして、地域ぐるみで子どもたちの安全を守っていくボランティア活動です。

福岡県での「子ども110番の家」は、小学校区ごとにPTAや小学校、自治体などが主体となって活動しています。

※「何らかの被害」には、いじめ、交通事故、自然災害による被害も含まれます。



自由ヶ丘地区の新しい「子ども110番の家」ステッカーです。

活 動 内 容

- 子どもが助けを求めて駆け込んできたときに子どもを保護します。
 - 子どもから事情を聞き、警察への通報や学校・家庭への連絡をします。また、身体に関わる場合は、119番への通報をします。
- ※その他、日常生活の中で、不審者を発見したとき、子どもたちが被害に遭いそうな危険な個所を発見したとき等の警察への通報および連絡をします。

「子ども110番の家」の歴史

「子ども110番の家」は、平成6年4月、岐阜県鳥羽市において、小学2年生の児童（当時7歳）が、下校中に殺害されるという痛ましい事件を教訓として、平成8年3月に岐阜県可児市今渡小学校PTAが中心となり、警察・地域防犯協会と連携して発足したのが始まりです。宗像市では、全国の「子ども110番の家」の取り組みを受けて、平成9年頃から始まったようです。近年は、取り組み始めたころに比べ、『高齢化のため対応できない』、『ステッカーや旗はあるものの住んでいらっしやるかどうか分からない。』、『「子ども110番の家」がどこかも分からない』等の問題が出てきています。

宗像市内では、PTAが主体となって取り組みを進めているところもあれば、各地区のコミュニティ運営協議会（各地区コミセン）が主体となって取り組んでいるところもあります。現在、学びの丘学園では、「子ども110番の家」ステッカーを自由ヶ丘地区コミュニティ運営協議会育成部会で購入し、PTA地区委員の方々でお世話していただいているところです。もう一度、取り組み始めた頃（原点）に立ち返り、子どもが安全に安心して暮らせる自由ヶ丘にしていきたいと考えます。

黄色い旗の取り組み

30年程前に、黄色い旗の取り組みをした地域（学校）があったと聞いたことがあります。その地域は高齢化が進み、独居老人の問題を抱えていたそうです。そこで、考えられたのが、地域の方々（独居老人を含む）に自宅から登下校中の児童の様子を見守っていただき、気づいたことがあれば、学校へ知らせていただく。逆に、独居老人の家庭には黄色い旗を渡しておき、児童が登校する前に道路から見えるところに旗を掲げていただき、登校する児童が独居老人の安否を確認するようになっていたということです。黄色い旗が掲げられていないときは、子どもたちが学校の先生方に知らせて、学校から地域の方へ連絡し、安否を確認していたという取り組みだったそうです。（互いに見守り見守られている関係、素晴らしいですね）